

三郷の民俗資料の現状

三郷市には、市立郷土資料館と彦成小学校講堂記念館の二館の資料館が存在し、それぞれの館で民俗資料等の展示をしている。民俗資料等は市民の方や市内公共施設、学校等から寄贈・譲渡されたものであり、これらの資料の保存及び保管は、各資料館内や市内資料倉庫で行っている。管理のため、平成二十六年（二〇一四）より資料館の展示や古文書など、これらの調査・整理等をしていただいている市民ボランティア「三郷市文化財サポーター」と一緒に、平成二十九年（二〇一七）、所蔵資料の調査を行った。その結果、令和二年度現在の資料総数は、一五二七点となっている。

この一五二七点の資料の内訳は、民俗資料として二一五

四点、考古資料として九二点、学校資料として二〇一点、戦争資料として五六点、その他歴史資料として二一四点となっている。

民俗資料をさらに細分化し、分類別によると〔図表1〕の内容となる。農耕に関する資料が最も多く、二九七点であった。次いで、食に関する資料が一七九点、住、諸職に関する資料がそれぞれ一三一点であった。農耕に関する資料が多いという点については、当市域が二郷半領に属し、古くから早稲米の産地だったということや江戸時代の大規模な新田開発により稲作を中心とした農業が盛んであったことが影響していると考えられる。

